①ふるさとの味を提供する「食の文化祭」などを行っている京津畑自治会
②花壇づくりで交流を進める千厩町第13区自治会
③ひこばえの森を舞台に広葉樹の植樹活動などを行っている室根町第12区自治会
④「元気なコミュニティ100選」認定を浅井市長（右）に報告した３団体の代表者の皆さん

元気なコミュニティ

3団体に認定証が交付

県が地域活性化に先進的に取り組んでいる団体を認定し広く情報発信しようと定めた「元気なコミュニティ１００選」に、市内から大東町の京津畑自治会（菊池建会長、58世帯）、千厩町第13区自治会（千葉喜美雄会長、82世帯）、室根町の第12区自治会（小岩邦彦会長、96世帯）の３団体が選ばれました。

団体の代表者ら５人が２月５日、市役所を訪れ、浅井市長に報告。浅井市長は「自分たちの地域を自分たちで盛り上げるということは地域づくりの原点。それぞれの地域特性を生かした取り組みを今後も継続していただきたい」と期待を寄せました。

３団体の代表者は「取り組みが認められてうれしい。今後は旧京津畑小校舎を活用したグリーンツーリズムなどにも取り組んでいきたい」（菊池会長）、「今年は『花の駅』も開業する。特色のあるほかの施設に負けないものにしたい」（千葉会長）、「今後も環境問題に取り組み、訪れる人たちには農業の良さなども伝えていきたい」（小岩会長）と今後の抱負を意欲的に語りました。

京津畑自治会（大東）

平成３年の自治会結成以来、道路清掃やごみステーション建設などの環境美化活動、京津畑神楽の伝承、郷土食の伝承などを柱に活動。平成12年には「京津畑ふるさとづくり実践計画」を策定し、各種活動を積極的に展開してきました。

特に10回目を数える「食の文化祭」では郷土食の豊かさを内外に発信し、交流人口の拡大につながっています。これを契機に発足した「郷土食研究会やまあい工房」は農産加工などで実績を伸ばし、女性の生きがいと雇用の場となっています。

古里の魅力を発見しようとこれまで記録誌３冊を発行。中でも「やまあいの小正月」を契機に60年ぶりに「成木責め」などを復活させるなど、世代間交流も進んでいます。

千厩町第13区自治会

国道２８４号沿いの休耕田をカンバスにした花壇作りを核に地域づくりを進める同会。昭和45年の岩手国体を契機に、交通安全母の会が中心となって行っていた花壇作りを平成７年から引き継ぎました。

８００平方㍍の花壇に40種類、約１万本の花で「ともだち」「かけっこ」など子どもの姿をテーマに描く花壇は、苗作りから自分たちで行っています。市花いっぱいコンクールで２年連続市長賞に輝いたのをはじめ、全国コンクールでの入賞も多数。現在は年間約１万人もの人が訪れる花の名所となっています。

第12区自治会（室根）

気仙沼市の漁業者が行う「森は海の恋人」植樹活動に共鳴し、気仙沼湾に注ぐ大川上流の「ひこばえの森」への植樹を進めています。これまでブナやミズナラなどの広葉樹２万９０００本を13㌶に植えてきました。活動は小・中学校の教科書でも紹介され、環境教育の実践の場となっています。

平成６年には手作りで復元した水車小屋を「こっとんこ」と名付け、地域のシンボルに。月１回の「こっとんこ市」での農産物・加工品の販売や、絶滅寸前だった「矢越かぶ」の栽培、大川の清流化など、環境保全と環境保全型農業を活動の柱としています。

元気に100歳

おめでとうございます

辻本トリヲさん（一関）

辻本トリヲさん＝滝沢＝は１月26日、入所先の特別養護老人ホーム明生園で満１００歳の誕生日を迎えました。

同日、同園でお祝いの会が催され、長男の功さん（67）夫婦や親戚、施設の皆さんが長寿を祝う中、浅井市長が花束を贈ると、トリヲさんは「美しいこと」と目を細め、にっこりとほほ笑みました。

村上ちどりさん（一関）

村上ちどりさん＝萩荘＝は２月10日、自宅で満１００歳の誕生日を迎え、長男の陸郎さん（83）夫婦や家族、親戚、近所の皆さんなど多くの人がお祝いに訪れました。

浅井市長から贈られた花束に、にっこりのちどりさん。市長から「いつまでもお元気で」と声を掛けられると、しっかりした口調で「ありがとうございます」と答えました。

熊谷さまたさん（室根）

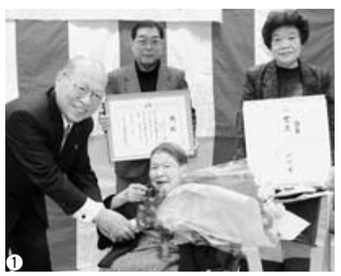
特別養護老人ホーム孝養ハイツに入所している熊谷さまたさんは２月11日、満１００歳の誕生日を迎えました。同日、小山地域自治区長が同施設を訪れ、祝い状と記念品、花束を手渡して長寿を祝福しました。

家族や施設関係者は踊りを披露。さまたさんは入所者と一緒に楽しく過ごし、「ありがとうございます」とにこやかに話していました。

及川オシメさん（大東）

及川オシメさん＝大東町大原＝は２月15日、入所先の特別養護老人ホームやまぶき荘で満１００歳を迎えました。小山地域自治区長から「これからも健康で元気に長生きしてください」と祝い品が手渡されました。

同日開かれた施設の誕生会では、家族や友人らによる歌や踊りで盛大に満１００歳を祝福され、オシメさんはうれしそうに笑顔で応えていました。



①笑顔で花束を受け取る辻本トリヲさん
②自宅で誕生日を迎えた村上ちどりさん
③晴れやかな表情で花束を受け取る熊谷さまたさん
④くす球開被で祝福を受けた及川オシメさん

宝くじの助成で各種事業を実施

２団体が宝くじの普及広報事業費の助成を受け、活動用資材の整備や交流事業などを行いました。

■一関夫婦神楽

真新しい鶏舞衣装を披露しました

一関夫婦神楽（茂庭勉代表）は㈶自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用し、神楽太鼓や鶏舞衣装、アンプやスピーカーなどの音響装置を整備しました。

同会は春の「岩手県南宮城県北神楽大会」やお盆の「かがり火神楽」の運営の中心を担い、地元南部神楽の普及と継承に努めています。

１月13日には厳美公民館で新しい衣装や設備を披露する会が行われ、真新しい衣装に身を包んだ会員の力強い演技に、大きな拍手が送られました。

■川崎21世紀国際交流クラブ

おそろいの衣装をまとい、川崎文化祭でフィリピン舞踊を披露

川崎21世紀国際交流クラブ（佐藤勇三代表）は㈶自治体国際化協会の助成を受け、チマチョゴリ（韓国）、チャイナドレス（中国）、フィリピン舞踊用の装束を購入したほか、日本語教室や多文化理解交流事業を行いました。

同会は、主に東南アジア諸国から日本に嫁いだ人たちが家族や地域との交流を深め安心して暮らせるようにと、民族衣装の紹介や民族舞踊披露、また食を通じて言葉や文化の壁を越えた地域づくりを目指して活動を行っています。